

## RELATIONS MAGAZINE!

2021.7  
vol.5

## 編集後記

2021年度がスタートして早4か月が過ぎようとしています。収まらないコロナウイルスの影響、例年のないほどの暑さ…。みなさまいかがお過ごしでしょうか？さて私事ですが、5月7日毎日新聞全国版に「社会教育士の取り組み」として取り上げていただきました。179リレーションズというプロジェクトを通して、皆さんの共通点を感じ始めた”社会教育”という分野に、民間という立場で関わらせて



ていただいていることを多くの方々に読んでいただくことができました。これまで私たちに関わり、たくさんの活動のヒントをいただいたみなさまにこの場を借りて御礼申し上げます。179リレーションズは、2021年度もコロナにも負けずオンライン・オフラインでの地域に関わる「入り口」を作っていきます。引き続き、よろしくお願いいたします。



179リレーションズ  
コーディネーター/編集長  
水谷あゆみ（たに）

## 関係人口創出プロジェクト「179リレーションズ」とは

179リレーションズでは、北海道各地の”地域に関わる「入り口」”をつくります。ひとつひとつのまちや活動に注目し、住んでいる場所や世代を超えて誰もが対等な関係性を大切にしながら、若者をはじめとする次世代の担い手が育ち、変化に強い持続的な地域がつけられていくことを目指します。

特に以下の項目を重点項目として展開しています。

- ① 「関係人口」創出により、地域外の若手人材を地域の活動へ巻き込みます
- ② 地域内の若者が、主体的に展開する様々な活動と連携します。
- ③ 関係人口創出WEBマガジン「179RELATIONS」から参加する若者のリアルな声をお届けします。

季刊誌「RELATIONS MAGAZINE」では、179RELATIONSの最新情報やホットな話題をお届けします。みなさんとの連携のきっかけになればと思いますので、気になる情報や活動がありましたらお気軽にお問合せください。



## 運営団体「NPO法人ezorock」とは



“ezorock”は、「社会を揺り動かす」という理念のもと、2000年に行われた「RISING SUN ROCK FESTIVAL」における環境対策活動をきっかけに2001年4月に設立されました。青年層のネットワーク拡大とともに、北海道の地域課題に対して、若者のアイデアやパワーを届ける事業を展開。活動を通して若者が自らの人生と社会を切り開いていく機会を作り出しています。

2019年度実績  
活動日数 318日 人数のべ1645人 地域 24市町村

関係人口創出プロジェクト「179リレーションズ」季刊誌

RELATIONS MAGAZINE!

PRODUCED BY ezorock 

〒064-0809 札幌市中央区南9条西3丁目1-7

TEL/FAX 011-562-0081

E-mail info@ezorock.org

WEB <https://www.ezorock.org/>  <https://lin.ee/ugUhj0g>

 <https://www.facebook.com/ezorock/>  <https://twitter.com/ezorock/>

<https://179relations.net/>



<https://www.ezorock.org/>



【特集】  
ボランティア  
メンバーの本音。

<https://179relations.net/>

179 RELATIONS

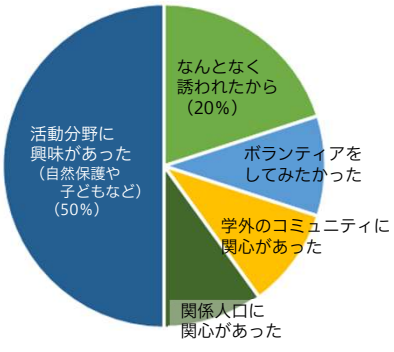


# 179リレーシヨンズ ボランテイアメンバーの本音。

179リレーシヨンズを支える25人の運営メンバー。どんな想いで活動に関わっているのでしょうか。

関係人口創出プロジェクト「179リレーシヨンズ」が本格稼働してから約1年が経ちました。現在、運営に関わるのは25人。全道各地から、年齢も経験も様々なメンバーが関わっています。大学生12人・大学院生3人・社会人10人。テーマや役割によって6つのチームに分かれて日々活動しています。(イベント企画運営・WEBマガジン編集・大雪山国立公園旭岳の自然保護・森のようちえん・浜益ベース・リサーチ)

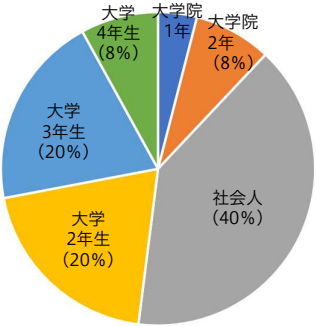
## Q：活動に参加した理由は？



大学の友だちなどに、「活動のことは結構話します。楽しんでるからね」「えらいね」と言われることもありますが、これはちょっと違和感がありますね。全然えらいじゃない、自分が楽しいから、自分が学びを得たいから活動に参加していると思っています。

「関わって何か変わった?」など普段はなかなか話さないような本音を、ふたりのメンバーに焦点を当てて深堀りしました。今回は話を聞けなかったメンバーも多いですが、ボランテイアメンバーの所属や参加理由など合わせて「寛くやさしい。若者が地域に関わる理由や気持ちに思いを馳せながら、ぜひ」をご覧ください。

## Q：普通の所属(学年)は？

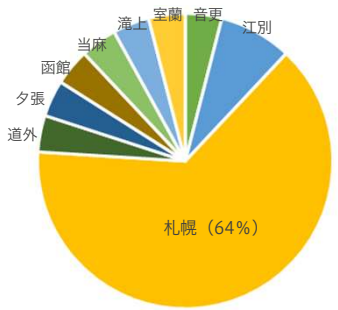


## Q：活動に参加して印象的だったことは？

(窪田) 本当にいろんな出会いがあります。大学では福祉の勉強をしていたけど、馬と暮らしている人たちに出会って、動物セラピーという選択肢があるんだとかも教わりました。厚真にも地震が起きたからという理由で行ったけど、逆に地域の方が温かく迎えてくれた。滞在して一緒に活動してみないと生まれたい関係性だし、話してもらえなかったと思っています。それまで知らなかったことをいっぱい知ったし、地域の実態のどこを見ても視野が広がりました。

(江川) 自分が思っていることを伝えたり、相手の思っている事を理解することがとても難しいなあと感じています。普段、自分の身の回りにいる人たちは価値観も言語も違う人たちと、会議をして議論しながら活動を作るときにそう感じます。コロナウイルスの影響で浜益でのイベント等が軒並み中止になってしまっていて、浜益の人たちと交流する機会が減ってしまったことにはもどかしさを感じます。でも、今作っている活動がこれからどうなっていくかとても楽しみです！

## Q：現在住んでいる場所は？



(江川) 出身は埼玉県です。たまたま中学生の頃の学校行事で静岡の自然学校に行きました。そこで、自然の面白さや多様さを知って、大学では森林を学びたいと思って北海道大学へ進学しました。札幌に来る前から「札幌・自然・NPO」で検索してzoomの活動は知っていて、札幌に来たら参加しようと思ったのでした。

## Q：どうして自分の時間を削ってまで活動しているの？

(窪田) 正直大変なこともあります。仕事で疲れてるのに会議があるとか。でも、活動でいるのを知って、どんどん興味が高まるともたのしみながら関わっています。他のところの子と活動に行くことが子どもを育てていく子がいっぱい、自分で火起こししている子がいたり。子どもの主体性を知り求めた、そんな驚きを求めて、色々な学んでいけたらと思っています。

(江川) 自然・一次産業やまちに関わるのがとても楽しいし、それを続けていきたいから、どうせやるなら深く関わってみたいと思ってコアメンバーとして活動しています。

## 話を聞いたメンバー



江川智也 (20)  
北海道大学農学部  
2021年春から  
浜益ベースに  
関わり活動中



窪田理央 (22)  
北海道大学函館校卒  
2020年夏頃から  
厚真町滞在や森の  
ようちえんに関わる

本紙は、(一社)北海道総合研究調査会 休眠預金を活用した「北海道未来社会システム創造事業」の助成を受けて作成しています。活動の一部は、独立行政法人環境再生保全機構地球環境基金を活用して実施しています。

Instagramも  
続々更新中!



MEMOマガジン記事  
ピックアップ

ACTIONSG  
浜益全体が最高の遊び場に

INTERVIEWQ  
179リレーシヨンズのはじまり〜前編〜

報道採録

5月7日 毎日新聞全国版  
(「コーディネート」水色)

5月13日 北海道建設新聞  
(「浜益ワーケーション」)

5月21日 北海道建設新聞  
(「代表理事草野」)

活動カレンダー

4月 10日 浜益斗内果樹園  
お手伝いプログラム

5月 08日 浜益活動報告会&集落の教科書WS  
28日 RELATIONS RADIO 配信

6月 19日 稚内ナイト開催  
はまます果樹園  
21日 浜益ワーケーション  
27日 かのアウトドア  
クラブ@支笏湖

19日 月一度は森づくり @若小牧  
26日 大雪山国立公園旭岳  
自然保護プロジェクト  
21日 長期滞在開始  
27日 かのアウトドア  
クラブ@支笏湖

2021年  
4月~6月の  
トピックス  
活動日数のべ22日  
ミーティング回数88回  
運営メンバー25人